

21 世紀COEプログラム  
21st Century Center of Excellence Program

神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成  
Establishment of a National Learning Institute for the Dissemination of  
Research on Shinto and Japanese Culture

神道・日本文化研究国際シンポジウム (第1回)

各国における神道研究の現状と課題



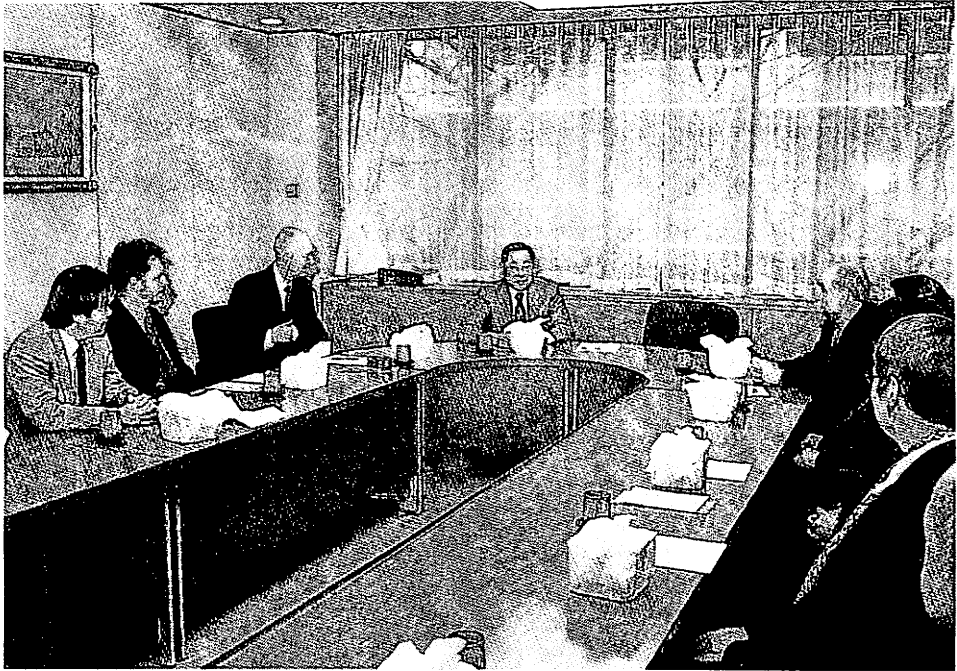
平成15年9月  
國學院大學 21 世紀COEプログラム

21 世紀COEプログラム  
21st Century Center of Excellence Program

神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成  
Establishment of a National Learning Institute for the Dissemination of  
Research on Shinto and Japanese Culture

神道・日本文化研究国際シンポジウム (第1回)  
各国における神道研究の現状と課題

平成15年9月30日  
國學院大學 21 世紀COEプログラム



## 目 次

はしがき

### 第 I 部 国際シンポジウム 各国における神道研究の現状と課題

＜第1セッション＞ 二十世紀のドイツ語圏における神道研究 ベルンハルト・シャイド.....	9
＜第2セッション＞ オランダにおける神道研究 —神学・宗教学・思想史・ミンゾク学を中心にして— ヤン・ファン・ブレーメン.....	25
＜第3セッション＞ フランスにおける神道研究 フランソワ・マセ.....	38
＜第4セッション＞ 米国における近現代神道研究の現状と展望 ヘレン・ハーディカ.....	48
＜第5セッション＞ 韓国における神道研究の現状と課題 李 元範.....	63
総 括 討 論.....	74
I. コメント.....	75
II. 応答.....	79
III. 自由討論.....	83

### 第 II 部 神道研究の現状と課題について

I. 招聘研究者の紹介 .....	95
II. 国内研究者の紹介 .....	96
III. 今後のテーマと研究視点.....	98
IV. 若手研究者育成をめざして .....	104

# はしがき

井上順孝

この報告書は、国学院大学 21COE プログラム「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」による研究の一環として行われた国際シンポジウム、及びこれに関連して開催された会議の成果を示すものである。この国際シンポジウムと研究会議は、国内外の神道研究のネットワーク形成を目指し、これからの神道研究に求められているものを議論している。こうとするもので、研究拠点を形成するための企画の一端を担っている。

第 1 回のシンポジウムのテーマとしては、国外の研究状況を相互に把握するため、「各国における神道研究の現状と課題」とした。神道の研究者は欧米に多いが、近年はオーストラリアや中国、韓国などにも増え始めている。どの地域から研究者を招待するかも重要な意味をもつが、このシンポジウムが今後継続して行われるものであることを念頭においたうえで、今回は次の 5 人を招聘した。

Jan van BREMEN 氏 (オランダ、ライデン大学)

Helen HARDACRE 氏 (USA、ハーバード大学)

François MACÉ 氏 (フランス、国立東洋語文化研究所)

李元範 (LEE Wonbom) 氏 (韓国、東西大学校)

Bernhard SCHEID 氏 (オーストリア、オーストリア科学アカデミー)

いずれも神道、日本文化研究において世界的に著名な研究者であり、かつ日本語も堪能である。ちなみに、会議はすべて日本語で行われた。

ブレーメン氏は日本学がさかんなライデン大学の人類学者で、最近靖国問題などに関心を寄せている。ハーディカ氏は日本の近代宗教の専門家で、黒住教や国家神道に関する著作などがある。マセ氏は日本神話の研究者として名高い。李元範氏は近代日本宗教の研究により日本で学位をとっており、とくに天理教の研究に詳しい。シャイド氏は吉田神道の研究者として名高く、最近その成果を著書として刊行している。また、コメンテータには、愛知学院大学の林淳氏を依頼した。同氏は日本仏教や陰陽道などに関する研究を続けており、神仏関係に関心を抱いている。司会は私が担当した。

シンポジウムは全体を 5 つのセッションに分け、最後に総括討論を行うという構成にした。各セッションでは、各国の研究状況と、それぞれのパネリストが専門分野とする領域での問題点等について発表してもらった。そしてそれぞれの発表に対する質疑応答を行った。最後の総括討論では、林氏に各セッションを貫くテーマ、さらに今後展開すべきテーマ等について問題提起してもらい、全体的な討議を行った。

またシンポジウムの前日には、これらの招聘研究者と招待した日本の研究者 4 人 (皇学

館大学の櫻井治男氏、九州大学の関一敏氏、天使大学の田島忠篤氏、関西学院大学の対馬路人氏)、及びシンポジウムの実行委員が一堂に会し、今後の方針、その他を巡ってかなり突っ込んだやりとりが行なわれた。

神道研究はアメリカをはじめヨーロッパ各国で行われており、近年は中国、韓国などアジアのいくつかの国においても本格的に着手されるようになってきている。しかしながら、いずれの国においても、研究者の絶対数は日本仏教の研究者に比べればきわめて少ない。また神道研究という分野が確立されていることはほとんどなく、日本研究の一環として行われているのが実情である。

日本における神道研究もある程度似たような状況にある。仏教研究者やキリスト教研究者に比べて、神道研究者の数は少ないと言わざるを得ない。また歴史学、民俗学、宗教思想史といった分野で「神道をも」研究対象に含める人は少なくないが、神道学とか神道研究という分野が確立されているとも言い難いところがある。

このような現状から、神道研究の今後の展開を考える上で必要になるのは何か。むろん、それぞれの分野における研究を充実させ、確実な成果を積み重ねていくべきことは言うまでもない。それと同時に、マクロな視点から神道研究の展開を図っていくことも求められる。そうしたとき、国外における神道研究の現状と水準を知り、これを国内の研究とより密接に関係づけつつ、神道研究の充実を図ることは、当然求められることの一つと考えられる。

ところで、国学院大学日本文化研究所では、平成8(1994)年に、『神道事典』を編集・刊行した。これは戦後初の本格的な神道の総合事典と言うべきもので、神道の体系的研究が目指された構成となっている。日本文化研究所でそれまで積み重ねてきた基礎的な文献収集や、研究プロジェクトの上に編集されたものであるが、戦後の神道研究を振り返るとともに、今後の研究上の見取り図を描くことも目的とされていた。全体が9部から構成されるこの事典は、おそらく今後の神道研究にとっての重要な足場を形成するものとなるだろう。

今回のCOEプログラムでは、この神道事典の翻訳も行っている。平成14年度はCOEプログラムの一環として、また15年度は大学によるCOE支援プログラムとして実施されている。英訳は事典刊行の直後から計画されていたものであるが、諸般の事情により遅々として進まなかった。しかし、COEプログラムの採択によって、この作業も急速に進展することとなった。

この事典の翻訳には約30人の英語圏の研究者が加わっている。アメリカのカリフォルニア大学バークレー校、ハーバード大学ライシャワー研究所では、翻訳チームを形成してこのプロジェクトを支援してくれている。こうした翻訳作業と今回の国際シンポジウムとは強い関連をもっており、具体的な作業を行いながら、人的ネットワークを形成し、それを研究のレベルアップにつなげていこうという構想をもっている。

今後の神道研究に必要なことを有機的に連関させて実施するための翻訳であり、このシ

ンポジウムである。このような試みから若い研究者が育ち、また新しい研究視点が生み出されることを目指している。このような背景をもつてのシンポジウムであるので、ここで議論、あるいは形成された人的ネットワークは、長いスパンでその成果が熟していくものと考えられる。

シンポジウムは公開としたので、この問題に関心を抱く研究者が百名近く集まった。そのうち、外国人研究者も 20 名含まれ、議論はきわめて活発であった。この報告書を読んでもいただければ、その密度の濃さを了解してもらえらるだろう。第 2 回のシンポジウムは、平成 15 年 9 月に「(神道) はどう翻訳されているか」というテーマで行われる。しだいに密な研究交流が進むことが望まれる。

以下に、国際シンポジウム及び前日の研究会議の日程その他を記しておく。

## 1. 国際シンポジウム

テーマ「各国における神道研究の現状と課題」

日時 平成 15 (2003) 年 3 月 16 日 10:00~17:00

場所 國學院大學百周年記念館視聴覚教室 (渋谷区東 4-10-28)

プログラム

10:00 シンポジウム開会

10:10-11:00 第 1 セッション

Bernhard SCHEID (オーストリア、オーストリア科学アカデミー教授)

11:00-11:50 第 2 セッション

Jan van BREMEN (オランダ、ライデン大学教授)

<昼休み>

13:10-14:00 第 3 セッション

François MACÉ (フランス、国立東洋言語文化研究所教授)

14:00-14:50 第 4 セッション

Helen HARDACRE (U S A、ハーバード大学教授)

<休憩>

15:10-16:00 第 5 セッション

李 元範 (LEE Wonbom) (韓国、東西大学校教授)

16:10-17:30 総括討論

コメント: 林 淳 (HAYASHI Makoto) (愛知学院大学教授)

17:00 閉会

司会 井上順孝 (INOUE Nobutaka) (国学院大学教授)

## 2. 関連研究会議

日時 平成15(2003)年3月15日 午後2時～5時

場所 國學院大學院友会館2階小会議室

参加者

・外国人招聘研究者

Jan van BREMEN 教授

Helen HARDACRE 教授

François MACÉ 教授

李 元範教授

Bernhard SCHEID 教授

・国内招待研究者

櫻井 治男教授

関 一敏 教授

田島 忠篤教授

対馬 路人教授

・國學院大學COEプログラム推進者、シンポジウム実行委員、及び協力者

井上 順孝 教授

Norman Havens 講師

黒崎 浩行 講師

矢野 秀武 兼任講師

日平 勝也 調査員

Levi McLaughlin 調査員

稲場 圭信 共同研究員

遠藤 潤 共同研究員

平藤 喜久子 共同研究員

会議内容

1.挨拶

シンポジウム実行委員長 井上順孝

2.メンバー自己紹介

3.本プログラムの趣旨について

「神道・日本文化の情報発信と現状の研究」グループリーダー 井上順孝

・COEプログラム申請の経緯

・『神道事典』英訳の構想と現状

・国際シンポジウムの位置付け：今回及び以後

4.討議—その1—

・プログラムの趣旨への質疑応答



- ・シンポジウムの方法についての質疑応答

5.討議—その2—

- ・若手研究者育成のシステム
- ・今後展開すべきテーマ
- ・国学院大學に求められるもの
- ・国外・国内の研究拠点との連携

なお、第一回のシンポジウムの実行委員は次のとおりである  
(肩書きはシンポジウム当時)。

神道文化学部教授 井上 順孝 (実行委員長)

神道文化学部講師 Norman Havens

日本文化研究所兼任講師 矢野 秀武

日本文化研究所調査員 Levi McLaughlin

日本文化研究所調査員 日平 勝也

日本文化研究所共同研究員 稲場 圭信